

凍結防止対策のご案内

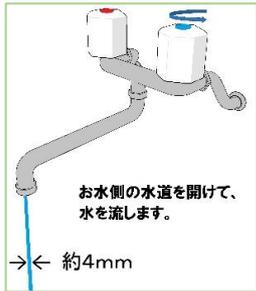


寒波が近づくとつれ、水道管凍結の心配が予測されます。

事前の予防等をまとめましたので、凍結防止の対策をお願い致します。

給水側の水道配管・凍結防止対策

※ガス給湯器で沸かしたお湯に使用する配管限定



気温の極端な低下が予想される場合、「お風呂場・台所・洗面所」の蛇口をわずかに開き、少量の水を流すことで、凍結を防ぐ効果があります。

- ① それぞれの蛇口（水栓）から水を流しておく。
- ② 目安は、水の太さは約4mm、1分間に約400ccを流したままにする。
（水量が不安定になる事があるので、約30分後に再度確認する。）
- ③ 外気温が0℃以上になるまで、流したままにする。

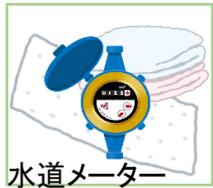


屋外の水道管・水道メーターボックスに、保温材・毛布・タオル等を巻きつけておく。

陽が当たらない場所、風当たりの強い所、水道管がむき出しになっている所の蛇口（水栓）、水道管などには、保温材・毛布・タオル等を巻き付けておく事で、凍結予防になります。

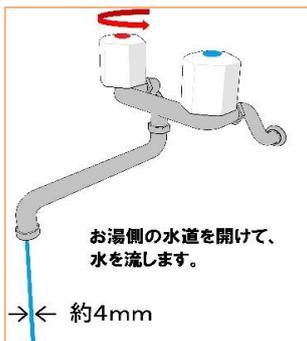
※毛布やタオル等に水が掛かると保温効果が無くなります。

ビニールなどを掛けて、雨水・雪などが掛からないようにしましょう。



給湯側の水道配管・凍結防止対策

※ガス給湯器で沸かしたお湯に使用する配管限定



- ① 給湯器のガスの元栓を閉める。 ※屋外給湯器の電源プラグは抜かないで下さい。
- ② 給湯器の繋がっている、お風呂・台所・洗面所等、いずれかの「お湯側」の蛇口から、左図のとおり水を流す。
- ③ 目安は、水の太さは約4mm、1分間に約400ccを、外気温が0℃以上になるまで、流したままにする。
（水量が不安定になる事があるので、約30分後に再度確認する。）
（サーモ付混合水栓の場合は、レバーを最高温度の位置に合わせる）



★風呂自動給湯機能付きガス給湯器の場合 上記と同様のことを行って下さい。

浴槽内の循環アダプター上端より、5cm以上水を貯めて下さい。外気温が下がると、ポンプが自動的に浴槽内の水を循環させ、凍結を予防します。

もしも水道管が凍結したら

水道管が見えている所にタオルなどを掛け、「ぬるま湯」をゆっくりと掛けて溶かします。

もしくは、ドライヤーを使用し温めて下さい。



もしも水道管が破裂したら

メーターボックス内のバルブをしめて水止して下さい。

破裂した部分に布かテープを巻き付けて応急手当てし、防府水道センター(電話0835-23-5021)へ連絡して下さい

※ガス給湯器配管の破裂は、ご利用の各ガス会社へ連絡して下さい。

◆ ◆ 流す水は大事な資源です。

◆ ◆ バケツやバスタブなどに貯め、別にご利用下さい。

